

瓦礫は阪神大震災の時の1.02倍

瓦礫総量を過去の大震災、阪神の時と比べてみると、その差はたったの約45万ト。阪神時、やはり12年分と言われていたけれど、仮設焼却炉の建設もあり、処理は2年で完了。東北も27基の仮設焼却炉が順次稼働中なうえ、仮設だけでなく、廃炉を復旧させたり、事業者委託もしているの、新聞、TVで言う岩手11年宮城19年もかかりません。



※環境省4/9最新データより476万ト(岩手県)+1569万ト(宮城県)=2045万ト

広域処理瓦礫は複合汚染されている

津波による瓦礫は、福島原発由来の放射性物質だけでなく、建物の倒壊によるアスベスト(石綿)、PCB、石油化学工場や鉱山の堆積場からの有害化学物質や重金属、そして焼却炉の寿命を縮める塩でも汚染されています。



広域処理は被災地のお金を奪う

広域処理にかかる費用は、国から被災地に支払われる復興債(借金)から捻出されます。静岡県島田市は1トあたり、10万円の処理・輸送費を貰いましたが、広域処理がほぼ不要だった阪神の時の地元処理費は、1トあたり2万2千円。高額な処理費・輸送費を使うより、助成金は地元で被災地復興のために使われるべきでは？これは復興債を、なぜか被害のない地方公共団体が貰っていくという真逆の流れなのです。



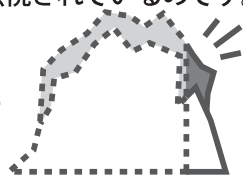
なんで? どうして? 広域処理

Ver.2.1

広域処理は瓦礫総量のたった20%

環境省が広域処理を訴えているのは、瓦礫総量のたった20%(H26年3月までに被災地で処理できない分)。瓦礫が片付かないのは残り80%の現地処理の遅れが原因です。震災から一年が過ぎ、建設が遅れていた仮設焼却炉もようやく稼働し始めた今、効率の悪い広域処理を進める合理的理由はありません。また、被災地には瓦礫を防潮丘の埋め立て資材などとして活用したいという声があるのに国に無視されているのです。

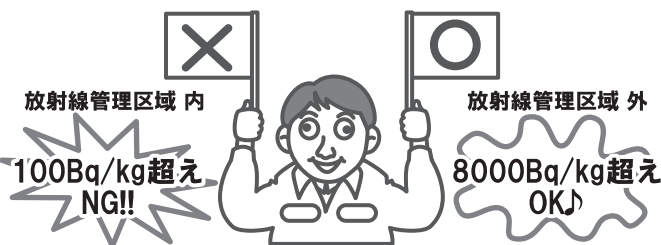
たった
20%



401万ト

原子力施設内は100Bq/kg、外に出ると8000Bq/kg

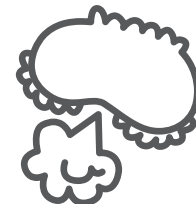
今日、今も、原子力施設内ではセシウム100Bq/kgを超えるものは低レベル放射性廃棄物として適宜工程処理された後、黄色いドラム缶に詰めて原発敷地内の施設で厳重に保管されているのに、一歩外に出ると8000Bq/kgまで埋め立てOK。それっておかしくないですか？



焼却炉のフィルターは万全ではない

バグフィルターはポリエステルやガラス織布、その他、耐熱フィルターで出来ています。しかし、その繊維と繊維の間は100nm(ナノメートル)。セシウムの原子直径は0.53nm、ストロンチウムは0.43nmです。

パンツでおならは防げない



セシウムの気化温度は671℃、フィルターに通す前はその耐温度である200℃くらいまで下げるといふものの、島田市では40%のセシウムが行方不明中。40%の全てではないにせよ、大気中に拡散された可能性が松葉調査などで計測されています。